

病院腎臓移植外科 田邊 起医長、移植コーディネーター 佐藤真澄看護師に講演していただきました。また、「今、病院と地域との関係性をどのように深めるか？地域に選ばれる病院になるための取り組み」と題して共催セミナーを行いました。一般演題は様々な職種より、18演題の発表があり、活発な意見交換が行われました。当日は、様々な職種の方に参加いただきました。開催にあたりご支援とご協力頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。

第15回岩手県支部学術集会

学術集会会長：岩手県立中央病院院長 宮田 剛

岩手県支部学術集会は、2024年10月12日(土)に岩手県立中央病院を会場として開催されました。テーマは「ジェネラルとスペシャル」。一般演題19題。特別講演は東京医科大学栄養管理科長の宮澤 靖先生「栄養サポート戦略の進化と未来展望」。

ランチョンセミナーは日本電信電話株式会社の染井隆徳先生「医療業界におけるAI活用の可能性」。

シンポジウム「ジェネラリストとスペシャリストの育成と課題」では、岩手医科大学総合診療医学講座教授 下沖 収先生には医師の立場、国際医療福祉大学三田病院看護部長 箱石恵子氏には看護師の視点、岩手県立胆沢病院主査薬剤師 及川 淳氏には薬剤師の視点、岩手県立中央病院医療クラークリーダー 阿部 真奈美氏には医師事務作業補助者の視点から夫々課題を示していただきました。

参加者101名を得て、医療現場での様々な取組を知る時間となりました。ご協力いただいた企業の皆様、関係各位に感謝申し上げます。

第21回京滋支部学術集会

学術集会会長：市立福知山市民病院病院長・
病院事業管理者 阪上 順一

2024年10月19日(土)に、京都テルサ(京都市民総合交流プラザ)にて第21回日本医療マネジメント学会京滋支部学術集会を開催いたしました。



会場風景

一般演題120題、ポスター演題28題が集まり6会場を用いた開催形式としました。学術集会テーマと同じ「キラリと輝く病院づくり～いま我々にできること～」と銘うったパネルディスカッションでは各地域で先進的役割を担う6名のパネリストにより議論が交わされました。

昼食時にはトップレベルのレクチャーによるランチョンセミナーを4会場設けました。大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部・中島和江教授による医療安全の基調講演、さらに、京都府立医科大学循環器内科学・的場聖明教授による京丹後長寿コホート研究の特別講演では数多くの聴講者が集まりました。

主催者側、招待参加を含めて全体で514人の参加者があり、医療マネジメントに関わる多職種の方々に楽しい学びの1日になったと思います。

第23回栃木県支部学術集会

学術集会会長：国際医療福祉大学医療福祉学部
医療福祉・マネジメント学科学部長 教授 山本康弘

2024年10月26日(土)国際医療福祉大学大田原キャンパスにおきまして、第23回栃木県支部学術集会を開催しました。今回のテーマを「栃木を支える地域包括ケアのあり方ーコロナ流行を経て医療・介護・福祉はどうなったかー」とし、156名のご参加をいただきました。

講演は「県民誰もが住み慣れた地域において、健康で安心して暮らすことができる栃木県の実現を目指して～「保健医療計画」及び「高齢者支援計画」～を踏まえて」を栃木県保健福祉部次長の高橋一貴先生から、そして「データからみるコロナ禍の地域包括ケアシステムの変化と展望」について医療福祉・マネジメント学科の坂本幸平講師よりご講演を賜りました。

パネルディスカッションは「栃木県北部の地域包括ケアシステムの変化と展望」をテーマに活発な意見交換が行われました。また、ポスター発表では11題の発表があり、盛況のうちに学術集会を終えました。

本学術集会を開催するにあたり、多大なるご支援とご協力をいただきました関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

第18回愛知県支部学術集会

学術集会会長：公益社団法人地域医療振興協会あま市民病院
病院長 水野公雄

2024年11月2日(土)にデザインセンタービルにおきまして、第18回愛知県支部学術集会を開催いたしました。学術集



会場風景

会テーマを『チーム医療の時代がやってきた～心理的安全性の果たす役割は～』とし、前回大会を上回る238名のご参加をいただきました。